

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000089		
法人名	株式会社ユーアンドエヌ		
事業所名	グループホームいきいきの家くりもと		
所在地	千葉県香取市高萩765-1		
自己評価作成日	平成26年1年27日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.pho
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成26年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで、緑に囲まれた四季折々美しい環境の中に「グループホームいきいきの家くりもと」があります。施設内は、バリアフリーになっており、入居者様が自由に過ごされています。希望のかかりつけ医への受診支援も可能であるが、訪問診療、訪問歯科、訪問看護が実施され日々体調管理に努めています。また、職員全員が一人一人に寄り添う介護に努め、家庭的で楽しく、明るく笑顔の耐えない施設づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな静かな場所に、平屋造りの建物と全面バリアフリーの安全に配慮された施設となっている。理念にある「個性を尊重しながら家庭的で質の高いケア」を目指して、家庭での暮らしと同じ雰囲気作りを心掛け、利用者別のフェースシートを活用して家族の一員のように話しかけ、寄り添い見守りを行っている。職員が食事からケアまでの業務を全て担当する事で責任感と向上心を育み、利用者への気持ちのこもった対応が行われるよう努めている。管理職は職員との話し合いを重ね提案も積極的に聞いていく事で、やる気と良い雰囲気作りを努めている。新入職員の質の向上に向けて現場で見て学ぶ、OJTに力を入れている。研修への参加者には、目的を明確にし何を学ぶかの課題をもって取り組ませ、伝達研修を担当させる事で情報の共有化とサービスの向上に繋げている。法人のグループに病院があり提携医療機関として連携を密にしており、往診や急変時も都度の対応に答え、常勤の看護師と連携を取りながら健康管理を行っている事が、利用者・家族への大きな安心となっている。家庭的で質の高いサービスと医療機関・看護師の連携による健康管理の体制が安心感を与えている事を評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時の職員の意見を集約しホーム独自のケア・理念・方針を作り玄関先に掲げホームの方向性を示すものとして表示し取り組んでいる。	開所時に職員の意見を集約したホーム独自の理念を掲げ、理念に基づくケアの在り方の意識を共有している。朝礼時には、利用者の個性を尊重し家庭的で質の高いケアについていつも話し合い、気持ちを一つにして日々の取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動や地域行事へ積極的に参加している。また、散歩や床屋に行くなどして地域の交流を図っている。	事業所は、自治会に加入し連絡を受けて地域の行事に参加している。利用者は地域の清掃活動に参加して体を動かし、公民館でのお茶会、生け花や顔見知りの人との会話を楽しんでいる。全員が床屋での身だしなみを整え、散歩や買い物により地域の人との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの参加を呼びかけ、認知症の方の理解を得る場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た問題点、疑問点を明確化しサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年2回、市の担当者・民生委員・家族が参加して開催されている。施設の状況や行事等の報告を行い、意見や要望は出来る事からサービスに活かしている。感染症対策や地震災害時の対応等について指摘があり、市の担当者との連携して実施する事となっている。	運営推進会議は年2回開催されているが、今以上に家族の意見・要望を運営に反映し、委員のグループホームへの客観的な提言と、地域との協力関係を深める話し合いの場として活用するため、年6回の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず市より担当の方の参加がある。また、市主催の会議等に参加し会議を通じて情報交換している。	市の担当者とは運営推進会議や研修会を通じて、情報提供と意見交換がなされている。市主催の感染症・身体拘束・ケア等の研修に参加してサービスの向上に繋げている。また、連絡協議会の待機人数・空き情報等を運営に活かす仕組みが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。事業所内に身体拘束廃止宣言を提示し、職員内でもミーティング、研修を通じて身体拘束廃止に努めている。	身体拘束廃止の宣言書を掲示し、朝礼や研修で話し合い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。玄関の鍵は施錠しないで自由に外出がなされており、見守りによるケアで対応している。日頃より丁寧な言葉遣いを心掛け、リスクについては家族と話し合い理解を取っている。また回避するための話し合いと工夫を常に行ってサービスに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等の研修に参加し、職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、権利擁護の相談はないが、制度の理解に努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明をし家族が納得した上で契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、苦情相談窓口がある事説明し、その都度早急に対応するよう心掛けている。	意見箱の設置や相談窓口より相談を受け付け、運営に反映する仕組みがある。家族の来訪時には、声がけをして意見・要望が言いやすい雰囲気の中で話し合いを行っている。事業所としては、家族の要望は叶える姿勢を持っており、まず一度は実行し、成果を検証しながら運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務においては、業務内やミーティング時に話をし情報交換をしている。	日常の業務における提案や要望は、申し送りノートを確認して、職員がやり易い方法等を検討している。また、行事についても職員の意見を取り入れ実施がなされている。社長との会議では、意見や要望について話し合い、全体の運営に反映する仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部運営による面接を行い、職員個々の意見を取り入れている。また、勤務希望や要望があればその都度聞き、働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、必要事項に応じて参加している。内部研修に関しては、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネ会議やグループホーム会に参加し、ネットワーク作りや情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、見学、情報収集を行い入居してからも要望等には耳を傾けて安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際に、不安や困っている事を伺って十分説明して信頼関係を築ける様に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合は要望を良く聞きより良いサービスが提供出来るように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活を大切に、個々にあった支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とはいろいろ情報交換をし、相談しながら支えあえる関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解や協力していただき自宅への外泊や希望された場所などへ行っている。	友人・知人・近所の人々の来訪により関係を大事にし、行事により馴染みの場所・地域を訪れて繋がりが途切れない支援を行っている。家族の来訪は多く、希望により家族の協力で外食や外泊の対応がなされている。遠方の家族には手紙で報告を行い、変化のある時は電話で連絡を取り関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がより良い関係が築ける様に、席の配置に配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅へ帰ったあとのサービスなどの情報提供を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族より、日常生活についての希望を伺い、その希望に添えるように支援を行っている。	入所前に所定の様式によるアセスメントシートを作成し、これまでの利用者の生活や身体の状態、希望を確認している。入所後は日常の生活の中から様子、問題点や気づきを申し送りノートに記入し、個人別のフェースシートに落とし込んで把握に努め、その人にふさわしい生活が送れるように一緒に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを考えながら、状況変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を尊重しつつ、家族の要望も取り入れケアカンファレンスなどで話し合っている。作成後は、家族に了承を得ている。	利用者・家族から希望を聞き、日々の状況をフェースシートに落とし込み、職員参加してケアプランを作成している。定期的にモニタリングを行い、ケアプランの評価と達成状況を確認している。利用者の状況変化時には、カンファレンスの開催により現状に即した新しい目標を設定し、その都度家族に説明して了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況を毎日記録し、状況把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に合うよう状況に応じた対応が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの訪問等招いて、楽しんでいただける様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医の受診が可能で、状況に応じて付き添い、支援している。また、内科、歯科の往診、訪問看護も実施している。	入所時に、利用者・家族の希望によりかかりつけ医の受診を支援している。職員同行の場合は、受診ノートに記入し情報を共有化し、家族に説明して状態の確認が行われている。主治医は、訪問看護師からの受診ノートによる情報をもとに診断を行っており、適切な医療を受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を記録し訪問看護時に看護師に伝え、相談し指示を受けている。必要に応じ病院受診行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、	入院した際は、病院と経過状況について密に連絡を取り、病院に向けての相談もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期における指針、対応方法を説明し同意を得ている。本人、家族の意向にそった支援ができる。	入所時に、重度化した場合の対応の指針を家族に説明し同意を得ている。また、終末期に関する希望のアンケートを実施して希望を確認し、出来る事・出来ない事の説明により理解がされている。状態が変化した時は、まず家族に連絡をし、主治医の指示により施設として出来る限りの対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の仕方については、研修や訓練を受け対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、年に2回非難訓練を実施している。	年2回の消防訓練を実施し、そのうち1回は消防署の指導を受けて、避難訓練や消火器と機器の使用方法等の実践を行っている。夜間を想定した避難訓練では、4名体制により避難経路の確認と時間短縮を図るべく対策を実施している。地域との協力体制について、話し合いの場を持つ事が今後の課題である。	地域とどのような連携が出来るのか、運営推進会議などで、話し合いの場を持つ事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室には鍵が設置されており、プライバシーに配慮している。また、接遇研修を実施し職員の意識を高めている。	入所時に重要事項説明書でプライバシーの情報開示について説明し、写真の掲載や面会者の家族への告知について別紙にて説明し同意を得ている。入浴や排泄時のプライバシーや羞恥心に気を配り、声掛けにも気をつけて対応を行っている。接遇については、伝達研修で意識を高めて日々のサービスに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に日常生活を送れるように、コミュニケーションを図り自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活にあった暮らし方を把握し、その方に適したサービスを提供出来るよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに応じた身だしなみを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や能力に応じて、食事の準備、片付けをしていただいている。また、月に数回フリーメニューを取り入れ食事を提供している。	利用者一人ひとりに合わせた、とろみ・刻み・常食を用意し、甘味・量・見た目にも気をつけて、職員の声掛けにより食事が楽しみとなるように配慮している。能力に応じて、テーブル拭き、下膳やおやつ作りの手伝いする事で、今ある力の維持に努めている。一人ひとりの栄養面を考えて、水分をとり三食をしっかり食べれる工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分に関してはチェック表で管理している。食事、水分量が少ない方は、高カロリードリンクなど、その都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の状態を把握し、その方に合わせた声かけ、誘導を行っている。	排泄チェック表で利用者一人ひとりの状態を把握し、声掛け誘導を行いトイレでの自立排泄の支援を行っている。オムツの人の漏れ防止は、経験者が尊厳に配慮し心配りをして行なわれている。日々の体操や水分摂取を心掛け、乳製品や牛乳を飲んで排泄を促す工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のリハビリ体操や、水分量などを管理し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿った入浴を提供し、必要に応じて足浴、清拭なども行っている。	入浴のスケジュール表はあるが、利用者の希望により柔軟に対応している。健康チェックと皮膚の湿疹や痣の確認をして入浴が行われている。入浴拒否の人には、無理をせずに日を変え、また気持ちを変える工夫や声掛けにより支援を行っている。浴室は常に安全と清潔に心掛け、温度の管理にも気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のパターンに合わせて休息していただいている。また、布団を干したり乾燥機を利用し、寝具の清潔いも気を配り、気持ちよく寝れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用を処方箋で確認している。服用時は、職員2名で確認しながら間違えがない様支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分で出来る事、出来ない事を見極め、一人一人が自分お役割を持ち生活されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など個別の要望に応じて行っている。	利用者の希望や体調により、日常的に散歩や買い物が行われている。天気の良い日は、ウッドデッキでの日光浴で外気を感じ、季節になると畑仕事で作る事の楽しみを思い出し、理容室での散髪により身だしなみには気を付けた生活が営まれている。家族との協力で外出や食事に、また事業所はいちご狩りや菊の鑑賞等を企画し、戸外で楽しめる支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から、預かり金として職員が管理しているが希望で本人が使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で家族など自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は全面バリアフリーであり、リビングや玄関には季節の飾り付けを行っている。	事業所は全面バリアフリーで、利用者の安全に配慮がなされた造りとなっている。共有空間は、習字やパズルの絵が飾り付けてあり、観葉植物や花で季節感を醸し出している。リビングにはソファを配置してくつろげる時間を持ち、好みにより和室での畳の感触を楽しみ、思い思いに過ごせるように配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースであるリビングには、ソファがあり和室もある為自由に使えるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来ていただいたり、希望により畳も可能となっている。	事業所は、利用者に必要な持参品の案内をして、相談を受けながら不安なく過ごせるように支援している。馴染みの物や大切にしている物を持ち込み、家庭での暮らしと同じ居心地になる様に心掛けている。温度や湿度の細やかな点検により、健康面に対する配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーになっており、トイレも解かる様になっている		